

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社 緑苑.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“心と心のふれあい”の理念を基に利用者様、ご家族様と職員が共に時を重ねてきた歩み... 週に3回の入浴を行い身体的清潔や変化にいち早く気づけるように努めると共に、常に身嗜みや整容が行き届くよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=...&JigyosyoCd=0177600285-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は戸建住宅が広がる閑静な住宅地の入り口部にあり、周辺には病院や公共施設、大型ショッピングモールも点在するなど利便性も高く、また自然も多く残された恵まれた環境下に立地している。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) regarding service results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流に関して可能な限り地域資源を活用する努力を行っている。理念を共有し心と心の触れ合いを大切に、一人一人がゆったりした生活を送れるよう実践に努めている。	「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」を理念とし、玄関に提示して利用者や家族、職員等関係者内外に示すことで、介護への心構えを再度認識し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々のご協力や、隣接のサービス付き高齢者住宅等との外への交流はもとより、外出がこんな方も共に交流できるように、ホーム内での交流も積極的に行うよう努めている。	2004年の開設以降、地域との交流は積極的に担っており、各種ボランティアの受け入れや資源回収、近辺の除雪等々、また地域の少年野球チームには資金的なバックアップも行うなど、地元の事業所として積極的に交流を維持、促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やケアカフェ、街角相談所の参加などを通じ、認知症の理解を高めるとともに近隣の方々に協力を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を月例会議で報告し、施設全体としての現状を把握し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、行政や家族、地域代表、知見者等々を含め2ヶ月毎に定期開催され、毎回のテーマも、看取りや認知症カフェと身近な報告も多く、また議事録も家族宅まで送られて、積極的な公表、開示に取り組み、サービス向上に努めている。	運営推進会議の定期開催と豊富な議題設定に敬意を表したい。今後は事故やヒヤリハットの報告も盛り込み、より認知症と事業所の理解促進に繋げるよう、期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連携を行い、状況に応じた相談等にも気軽に乘って頂ける関係を築いていけるよう努めている。	行政とは実施指導を含め、各場面で直接的、間接的に指導を受けており、また運営推進会議では、役所の時間外での開催にもかかわらず快く応じてもらい、信頼感のある関係性を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が目にするところに「手引き」を貼ることで常に意識を持つよう取り組むと共に、1F、2Fの連携を24時間行う事で拘束につながらないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に開催し、介護内容の点検と事例検討等を行っている。職員には直近の会議や申し送り時に周知し、拘束や抑制のない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行うと共に、日常的に虐待が行われないように話し合いをし、職員間の周知徹底に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加している。現在成年後見人制度を利用している方もいるため、学ぶ機会ができ、実際の現場でも活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外の日常時も含め十分な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と接する際になるべくコミュニケーションを図り、ご家族様の意見や要望を職員間で共有しケアの向上に努めている。	毎月メール通信を発行し、利用者の日常生活を写真入りで紹介している。また家族会も年に1度開催し、利用者・家族・職員間での情報交換と親睦を深め、意見や希望を今後のサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや月例会議を通じて常に職員が話し合える場を設けている。また、代表者、管理者が職員と共にケアを行う事でいち早く意見を反映できるよう努めている	定例会議や毎日の申し送りで、職員の意見や提案、アイデア等を話し合い、また個人面談の場も年に3回は設けており、何でも話し合える、風通しの良い職場環作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施すると共に、処遇改善加算アップをし就業環境の向上につなげている。また、勤続年数による表彰等、やりがいの持てる就業環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すすめている。これからも全員のスキルアップの向上の為に積極的に参加していきたい。法人がバックアップし実務者研修や実践者研修などにも参加をしやすい環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のケアカフェ(勉強会)やグループホーム連絡会などに参加し交流・情報交換をする機会を作っているが、行事や会議と重なり、参加できていないこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や医療機関と情報を共有し、入居前からご本人の安心が得られるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話をする機会を積極的に持ち、まずは家族にとっての良き相談相手になれる関係性が持てるよう最大限努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人、家族のニーズを正確に把握し、サービスの提供、検討を行ったうえでケアプランの作成にいかしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の尊厳を尊重し、共に出来る事を行いながら、コミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを大切にすることで、本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの経験や生活スタイルを考慮し、ホームに移っても大切にしてきた知り合いや家族が常に気持ちよく来て頂けるよう努めている。	利用者ひとり一人の生活習慣に沿った支援を目指しており、各人の思い出の味を訪ねたり、懐かしい地を巡ったり、普段からの風景を大切に、馴染みの関係が途絶えないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで、お手伝い、レクリエーション、外出などを通じ利用者同士が深く関わりあえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談に応じられる関係性を続けられるよう努めている。(現在も運営推進会議に参加して頂いている方がいる等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの生活等をなるべく知ることが出来るよう、ご本人やご家族様の思いをうかがうと共に、常に援助が職員本位にならないよう職員同士で心掛け、検討している。	本人の生活に添いながら、嬉しい事や嫌な事などの好き嫌いを理解し、職員で共有しながら本人本位になるように努め、困難な場合も家族や記録から意に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートなどの活用や、ご家族との話、本人との対話を通じより一層の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化、その日の状態を課題整理総括表に落とし込み、職員間での情報共有を行い、常に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや会議を含め、日常のご本人やご家族とお話や意見等を取り入れながら、よりよい生活を送って頂ける為の介護計画の作成に取り組んでいる。	担当がユニット会議で気づきノートを参照しながら日々の様子を報告し、職員皆でモニタリングを含め検討し、最終的には計画作成者が介護計画をまとめている。病変等で状況に変化が出た場合は、すぐに変更し現状に即した計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基にフロアごとのカンファレンスや月例会議を通じ、職員間の情報の共有に努め、個々の状態変化に合わせた対応を即実践に活かすことを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に合わせた柔軟な支援に最大限取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状において活用はしているが、今後はさらに活用できるよう意識していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医の希望確認をし、訪問診療については状況に応じた主治医との面談も含め、24時間対応にて利用者も家族、職員も適切で安心した医療が受けられている。	かかりつけ医は本人・家族の要望を優先しているが、全員が看取りを含め総合的な判断で協力医がかかりつけ医になっている。訪問看護も含め、24時間オンコール体制で、安心できる医療を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	温度盤や、看護記録と共に状態に応じ受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との連携やソーシャルワーカーとの情報交換・相談に努め、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期に向けた取り組みまでを説明しており、入居後は段階により、家族と医療関係者、職員とで話し合いチームケアに取り組んでいる。	契約の段階で書面にて重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。年間に3人前後の看取りを経験しており、本人や家族の意向にチームとして沿える様、日々研修等を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っているが、今後もさらに実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	避難訓練の実施や地域との協力で災害対策を築いている。(併設施設のグランドハウス緑苑に避難出来る体制が整っている)	年に2回の避難訓練を実施し、避難先は同一敷地内で堅牢な建物の同系列の高齢者住居とし、利用者家族にも伝えている。冬季の災害に備えて自家発電も用意、非常食も備蓄し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌なことはしないを信条に、一人一人の今までの生活環境を尊重し、入室時のノックや声掛けなど基本を大切に介助側の目線にならない常に努めている。	理念である「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」を主眼としてケアに徹しており、声掛けや促し、誘いをお願い等々、礼節に満ちた介護で臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じ自己決定や希望を表せるような関係づくりに努め、その人らしさを重視した対応に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活において、利用者一人一人のペースを最大限に考慮した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や洋服の買い物を含め、日常も常に清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好に配慮し、食事形態もそれぞれに則した対応をすることで、食事を楽しんで頂けるよう努めている。また、食事の盛り付けや、食器洗い・食器拭き等も職員と利用者様が一緒に行っている。	食事のメニューは給食会議で設定し、高齢者住居の厨房で調理している。利用者の応援を得ながら盛り付けや皿洗い等の片付けも行ない、職員も同テーブルで同じ食事を摂り、楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量・水分量を記録し摂取量が少ない方は食事内容の変更や(ミキサー食等)別紙対応を行うなど、一人一人の現状把握、支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔状態に合わせた口腔ブラシや舌ブラシ、歯間ブラシ等を用いて対応している。また、本人の能力に応じた見守りや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中帯を中心に重度の方でもなるべくトイレで排泄して頂けるよう援助し、それぞれに則したパット類を細かく準備し、必要以上のパット、オムツ類は使用しないように努めている。	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動きも把握して、乳酸品や軽い運動も取り入れながら、自然な排泄になるよう支援している。またオムツの是非をいつも問いかげながら、布パンツへの転換を積極的に進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	様々な飲み物を用意して、水分摂取量に注意し、運動も取り入れ、下剤や座薬の使用を最小限に抑える努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴を行っており、基本的な曜日は決まっているが、本人の体調や状況に応じ、順番や時間にこだわらず柔軟に対応している。	週に3回は入浴できるように配慮し、楽しいお風呂、となるように取り組んでいる。拒否傾向の利用者には時間や介助者に変化をつける等、無理強いすることなく、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた運動や日光浴を行ったり、体調に合わせてながら休息をとるなど快眠に繋がる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を常にチェック出来る体制を準備しており、職員が一致した認識を持ったうえでの支援に努めている。(個々の状況に応じて、薬剤師との連携のもと服薬の工夫を行っている。又、二重チェックを徹底し、誤薬防止に努めている)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが残存機能を生かして、役割や楽しみを持った日常を送れるように常に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見、夏の遠出の外出行事、秋の紅葉等の外出の機会を増やし、また希望に沿って家族とも出かけられるように支援している。遠出の困難な方も、近場での散歩やお茶のみの機会を積極的に設けている。地域の文化祭においては、毎年、地域の方に支援をして頂いている。	春の花見や秋の紅葉狩り等々の外出は、介護度が重い利用者も一緒に行けるよう配慮し、家族同行も得ながら、みんなの楽しみになっている。また近所への散歩、散歩も天候と相談しながら頻繁に出かけ、閉じこもらない、閉じこめない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力を考慮したうえで、家族の思いも踏まえ、可能な限り所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	適時対応支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを大切に、常に整理整頓や清潔を保つ為、毎食ごとに居間の清掃を行い、トイレ等は適時汚れをとる事で臭いの無い環境づくりに努めている。季節感を取り入れている際にも子供っぽい飾りつけはしないよう配慮している。(クリスマス、正月、ひな祭り等)	建物内は上履きを使用せず、素足での介護を基本としており、「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」の理念を、上履き=土足を排した介護で実践し体現化している。食堂を中心とした共有空間は明るく、清潔であり、華美な飾りつけもなく、落ち着いて生活ができるような工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の空間の仕切りや、ソファの設置等を行い、一人ひとりが思いのまま自由に過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向を取り入れ使い慣れたものを持参いただいたり、好みのものを使用させて頂いている。また、各居室の整理整頓や加湿・温度管理に努めている。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気を感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置、整理整頓を行い、転倒などのリスク回避に努め、本人が可能な限り自由に生活できるよう努めている。		